

記 入 日 2017 年 1 月 13 日

1. 概 要

実践団体名	宮城県多賀城高等学校		
連絡先	0 2 2 - 3 6 6 - 1 2 2 5		
プランタイトル	東日本大震災の教訓を全国につたえる, 世界につたえる		
プランの対象者※1	高校生, 地域住民	対象とする 災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

東日本大震災から約6年が経過し、都市型津波に襲われ、188名の犠牲者を出した多賀城市でも、津波痕跡の消失とともに被災の風化が進んでいる。近年、本校へは県内外の高校生や訪日者の訪問が増え、これらの交流の中で、各地での防災・減災に関する情報交換を行う期待が高まってきた。そこで、全国の防災・減災に取り組む高校生たちと、未来の「人とくらしを守る」交流事業を実施し、その成果を国内外の高校生等に伝えることに重点をおいた。

【プランの概要】

平成29年3月4、5日に県内外の高校生との防災・減災フォーラム「東日本大震災メモリアル day」を開催する。フォーラムの内容は、

- ①基調講演 …… 講師：東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏
- ②活動報告 …… 各学校からの防災・減災に関する活動報告
- ③ポスター発表 …… ポスターセッション
- ④ワークショップ …… 「もし24時間前に戻れたなら……」
- ⑤交流会 …… 参加生徒同士の交流会
- ⑥被災地見学 …… セヶ浜・多賀城被災地見学

を予定している。そこでの発表や進行に向けて、本校では、津波波高標識設置活動やワークショップのファシリテーターの養成などの準備を行っている。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- 1 東日本大震災における被災状況と復興の様子を全国や世界に語り継ぐことができる。
- 2 地元住民や企業への「聴き取り」を通して、地域とのつながりを持ち続けることができる。
- 3 フォーラムを通して、あらたな課題を発見し、各校が活動をさらに発展させていくことができる。
- 4 生徒の主体性や課題解決能力の育成になる。



2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	○フォーラムまでの年間計画立案	○参加校選定, 依頼 ○プログラム原案作成 ○講師選定, 依頼	○災害実態調査 1 多賀城市大代地区内みやぎ生協における被災状況聴き取り調査および波高標識設置の依頼
5月			○デジタルマップ作成 1
6月			○災害実態調査 2 アスクル仙台物流センターにおける被災状況聴き取り調査および波高標識設置の依頼
7月			
8月			○ワークショップ 1 (兵庫県高校生) ・震災の記憶 ・発災後 24 時間以内のシミュレーション ○ワークショップ 2 (三重県中高生) ・避難所運営ゲーム (HUG)
9月			○災害実態調査 3 キリンビール仙台工場における被災状況聴き取り調査および波高標識設置の依頼
10月			
11月	○デジタルマップ作成の見直し		
12月		○参加校決定 ○プログラム決定 ○講師決定	○デジタルマップ作成 2
1月			○ファシリテーター養成講習 1 東北学院大学和田教授と学生によるファシリテーター養成講習
2月			○ファシリテーター養成講習 2 ※報告書作成時未実施
3月			○東日本大震災メモリアル day ※報告書作成時未実施

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	災害実態調査1 (多賀城市大代地区内みやぎ生協における聴き取り調査)
実施月日 (曜日)	4月21日(木)
実施場所	多賀城市大代地区内みやぎ生協
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：佐藤 正広 所属・役職等：店長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	(1)津波が到達した高さを知り、津波波高標識を設置することで後世への伝承を行う。 (2)震災当時の被災状況や店の再開までの経緯を聞くことで、防災に関する知識を深める。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	(1)活動の趣旨を伝え、アポイントメントを取る (2)参加する生徒を決める(4～5名) (3)聴き取りを行う ・インタビュー、記録者、カメラマン、録音の4つの係に別れて行う ・津波が到達した高さは必ず聞く (4)報告書を作成する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：生徒4～5名 道具：防災ジャンパー、津波波高標識、メジャー、記録用紙 カメラ、ボイスレコーダー
参加人数	4～5名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 (1)津波の到達点を知り、標識を設置することができた。 (2)聞き取りにより、防災の知識が深まった。 【課題】 インタビューの質問を精選するべきであった。
成果物	津波波高標識を店舗入り口の自動ドアに貼ってもらったこと

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	災害実態調査2 (アスクル仙台物流センターにおける聴き取り調査)
実施月日 (曜日)	6月6日(月)
実施場所	アスクル仙台物流センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：大野 勝広 所属・役職等：センター長 他3名
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	(1)津波が到達した高さを知り、津波波高標識を設置することで後世への伝承を行う。 (2)震災当時の被災状況や工場の再開までの経緯を聞くことで、防災に関する知識を深める。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	(1)活動の趣旨を伝え、アポイントメントを取る (2)参加する生徒を決める(4～5名) (3)聴き取りを行う ・インタビュー、記録者、カメラマン、録音の4つの係に別れて行う ・津波が到達した高さは必ず聞く (4)報告書を作成する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：生徒4名 道具：防災ジャンパー、津波波高標識、メジャー、記録用紙 カメラ、ボイスレコーダー
参加人数	4名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 (1)企業が行っている防災活動を知ることができた。 (2)震災を思い出したくない人がいることを再認識した 【課題】 企業からの説明を一方向的に受ける形になってしまった。
成果物	企業の災害対策を知ることができたこと

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	災害実態調査3 (キリンビール仙台工場における聴き取り調査)
実施月日 (曜日)	9月7日(水)
実施場所	キリンビール仙台工場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：吉田 典央 所属・役職等：仙台工場エンジニアリング・環境安全担当部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	(1)津波が到達した高さを知り、津波波高標識を設置することで後世への伝承を行う。 (2)震災当時の被災状況や工場の再開までの経緯を聞くことで、防災に関する知識を深める。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	(1)活動の趣旨を伝え、アポイントメントを取る (2)参加する生徒を決める(4～5名) (3)聴き取りを行う ・インタビュー、記録者、カメラマン、録音の4つの係に別れて行う ・津波が到達した高さは必ず聞く (4)報告書を作成する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：生徒5名 道具：防災ジャンパー、津波波高標識、メジャー、記録用紙 カメラ、ボイスレコーダー
参加人数	5名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 企業が行っている防災活動を知ることができた。特に、地域との避難訓練を実施していることがわかり、参考になった。 【課題】 訪問する生徒に対して、企業の事前教育をした方がよかった
成果物	津波波高標識を設置させてもらったこと

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	ワークショップ 1 (兵庫県の高校生)
実施月日 (曜日)	8月3日(水)
実施場所	多賀城高校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：兵庫県引率 氏 名：和田 茂 所属・役職等：兵庫県立舞子高等学校教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	(1)災害が起きたときに適切な行動がとれるようにする (2)ワークショップのファシリテーターとしての技術を身につける
実践方法・進め方 (簡条書き またはフロー)	【発災後 24 時間以内のシミュレーション】 (1)兵庫県高校生 7 名と本校生徒会 1 名・防災委員 1 名を 1 グループとして 10 グループ作る。 (2)ワークショップの趣旨や進め方を説明 (3)ワークショップの実施 (4)グループ毎に発表
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：兵庫県高校生 70 名、本校生徒 23 名 道具：模造紙、付箋、マジックペン、ネームプレート
参加人数	約 100 名
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	【成果】 (1)お互いの震災について理解を深めることができた (2)災害が起きたときの行動を想定することができた。 【課題】 ファシリテーターとしてはまだまだ経験不足。
成果物	高校生同士のつながり、伝承活動の難しさ・大切さ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	ワークショップ 2 (三重県の中高生)
実施月日 (曜日)	8月4日(木)
実施場所	多賀城高校
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：三重県教育委員会 四日市大学 14名
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	(1)避難所の運営に関して適切な行動がとれるようにする (2)ワークショップのファシリテーターとしての技術を身につける
実践方法・進め方 (簡条書き またはフロー)	【避難所運営ゲームHUG】 (1)三重県中・高生6名リーダー1名と本校生徒会1名・防災委員1名を1グループとし、6グループ作る (2)ゲームの趣旨や進め方を説明 (3)ゲームの実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：三重県大学生10名，三重県中高生36名，本校生徒22名 道具：模造紙，付箋，マジックペン，ネームプレート
参加人数	約80名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 避難所の運営方法について知識を深めることができた 【課題】 ファシリテーターとしてさらなる経験を積むことが必要。
成果物	高校生同士のつながり

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	ファシリテーター養成講習 1
実施月日（曜日）	1月5日(木)
実施場所	多賀城高校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：和田 正春 所属・役職等：東北学院大学教授 他大学生 10名
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	技術を身につける
達成目標	ファシリテーターとしての役割を理解し、ファシリテーションを行う上での技術を身につける
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	(1)ファシリテーションについての講義 (2)大学生をファシリテーターとしたワークショップの実施 (3)グループ毎に発表 (4)講評
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：東北学院大学教授和田正春氏及び学生 10名 道具：模造紙、付箋、マジックペン
参加人数	約30名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 ファシリテーションについての役割を理解し、知識を深めることができた 【課題】 もう少し積極的に意見を出すべき。
成果物	ファシリテーションの知識

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】^{※3}（予定）

タイトル	ファシリテーター養成講習 2
実施月日（曜日）	2月4日（土）
実施場所	多賀城高校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：和田 正春 所属・役職等：東北学院大学教授 他大学生 10名
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムの カテゴリ、形式 ^{※4}	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的 ^{※5}	技術を身につける
達成目標	ファシリテーターとしての役割を理解し、ファシリテーションを行う上での技術を身につける
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	(1)ファシリテーションについての講義 (2)本校生徒がファシリテーターを務めるワークショップの実施 (3)グループ毎に発表 (4)講評
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：東北学院大学教授和田正春氏及び学生 10名 道具：模造紙、付箋、マジックペン
参加人数	約30名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】（予定） ファシリテーターとしての知識と技術を身に付けることができる
成果物	ファシリテーターの養成

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3 (予定)

タイトル	東日本大震災メモリアル day(予定)
実施月日(曜日)	3月4日(土)～5日(日)
実施場所	多賀城高校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：佐藤 健 所属・役職等：東北大学国際研究所 教授 他6名
所要時間または「コマ数×単位時間」	2日間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、講習会・学習会・ワークショップ、講演会・シンポジウム、校外学習・移動教室、
活動目的※5	その他(東日本大震災の経験と教訓を後世に継承する)
達成目標	(1)活動紹介やポスター発表を通して、防災の知識を深める (2)ワークショップにより災害時に適切な行動がとれるようにする (3)地域の防災リーダーとしての役割を担う人材を育成する
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	(1)基調講演…東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏 (2)活動報告…参加校からの活動報告 (3)ポスター発表…ポスターセッション方式 (4)交流会…参加校同士の親睦を深めるための交流会 (5)ワークショップ…タイトル「もし、24時間前に戻れたなら…」 (6)講評…宮城教育大学 特任教授 野澤 令照 氏 (7)被災地案内…多賀城市内の津波波高標識、七ヶ浜を案内
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏 東北大学災害科学国際研究所 助教授 佐藤 翔輔 氏 宮城教育大学 特任教授 野澤 令照 氏 東北学院大学 教授 和田 正春 氏 東北工業大学 参与 中川西 剛 氏 宮城県教育庁スポーツ健康課 課長補佐(防災担当) 福田 功 氏 宮城県教育庁高校教育課教育指導班 課長補佐(班長) 伊藤 秀樹 氏 道具：模造紙、付箋紙、サインペン、名刺カード、お茶、弁当など
参加人数	教員約20名、生徒約50名、講師・来賓約20名 計約90名
経費の総額・内訳概要	約1000,000円 内訳：交通費900,000円、消耗品10,000円 お茶・弁当代50,000円、雑費40,000円
成果と課題(予定)	【成果】 東日本大震災の教訓を継承する場を創ることができた 【課題】 参加校やプログラムなどの見直し
成果物	東日本で開催される全国規模の防災交流フォーラム

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>災害実態調査やワークショップをいつ行うかを立案するのに苦勞した。この活動は生徒の活動になるため学校行事や部活動の予定が重複しないようにするためである。また、その時期に、企業や講師の日程が合うかどうか実施日の近くにならないとわからないということもあった。</p> <p>工夫した点としては、災害実態調査は授業日の放課後に課外活動として、ワークショップは夏休みや冬休みなどの長期休業中に行うようにして、日程が過密にならないようにしたことである。本校では、このプランで実施するプログラム以外にも、課題研究や研修、地域と連携した防災活動、全国からの生徒間交流・視察など行事や活動が数多く組まれている。生徒の中には、重複して参加している生徒もいるので、生徒の活動を把握することが大切であり、担当する教員間の連携も密にする必要がある。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【参加校の選定】 参加校については、かねてから交流がある、災害についての課題研究を行っている学校、防災活動に積極的に取り組んでいる学校を中心に選定した。これまでの支援・交流に感謝し、ともに防災活動に取り組む仲間として新たなスタートを切りたいと考えている。</p> <p>【プログラムの決定】 プログラムについては、本校が参加させていただいている兵庫県立舞子高等学校主催の全国防災ジュニアリーダー育成合宿を参考にさせていただいた。さらに、今年度本校に新設された災害科学科の特色を活かして、災害に関する課題研究の発表の場を入れ込んだ。</p> <p>【講師の選定】 講師については、災害科学科の開設や防災活動について助言や指導をいただいていた方々に依頼した。このようなフォーラムを開催できることに感謝するとともに、今後も助言や指導をお願いしたいと考えている。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【災害実態調査】 前年度は、地域住民からの聴き取りを行ったが、今年度は地域企業からの聴き取りを行った。企業では、「聴き取り」というよりも各企業が準備した企業の取り組み紹介を「聴く」という形になってしまい、生徒の主体的な取り組みとしては住民からの聴き取りよりも弱まる面が見られた。しかし、東日本大震災後に一個人だけでなく企業にも変化が現れていることを知り、生徒の関心意欲を十分に引き出すことができたと思われる。</p> <p>【ワークショップ】 ワークショップについては、本校生徒は授業でも外部講師を招いてのワークショップを行っている。しかし、その進行の仕方がわからず、言われるがままに行っている様子が見られ、だらだらな活動で終わってしまうグループも見られていた。そこで、ファシリテーターを養成するために、東北学院大学の和田教授にお願いし、講習を行うこととした。ファシリテーターの役割や進行の仕方を実践を通して学ぶことで、ファシリテーターとしてのスキルを身につけることができた。</p> <p>【デジタルマップ作成】 マップに画像と文章を埋め込むことは概ねできそうであるが、音声を埋め込むことについては検討中である。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	宮城県教育委員会 多賀城市教育委員会 東北大学災害科学国際研究所 宮城教育大学 東北学院大学 東北工業大学	助言・指導
保護者・ PTAの組織		
地域組織	多賀城ロータリークラブ	資金提供
国・地方公共団体・ 公共施設	復興庁	助言・指導
企業・ 産業関連の組合等	みやぎ生協大代店 アスクル仙台物流センター キリンビール(株)仙台工場	災害実態調査
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>【災害実態調査】 「津波波高標識設置活動」において、津波痕跡の消失による地域からの聴き取りを企業まで拡げて実施することができた。これにより、聴き取り調査を地域住民と企業で行えることになり、活動の幅が広がるとともに、企業が行ってきた防災への取り組みや地域貢献を聞くことで、今後の防災活動への参考にすることができた。</p> <p>【ワークショップとファシリテーター養成】 フォーラムにおけるワークショップのファシリテーターを養成するために、近隣大学の教授や学生を講師に招き、養成講習を実施することができた。この活動を通じて、ファシリテーションのスキルを身に付けるとともに、主体性を身に付けることができた。</p> <p>【東日本大震災メモリアル day】 フォーラム開催が3月のため、実施後の成果を報告することができないが参加校相互の防災・減災活動やワークショップ、交流会における意見交換を通して、地域社会の防災・減災の担い手を養成できると考えられる。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>【デジタルハザードマップの作成】 今年度はデジタルハザードマップの作成まで完了することができなかった。そのコンテンツや方法についてさらなる研究が必要。</p> <p>【災害実態調査】 この活動を通して、生徒が自ら地域の課題を発見し、伝承の継続や復興住宅の問題、小中学生への啓発に取り組むなど、主体性や課題解決能力が格段に向上した。</p> <p>【ワークショップ】 ファシリテーター養成講習を受けるまでは、ただ何となくテーマを決めて、何となく話し合っ、何となくまとめてというワークショップを実施してきた。講習を受け、ファシリテーションだけでなくワークショップのあり方まで研修できたことで、今後の他校との交流において、より効果的なワークショップを実施できるようになったと考えられる。</p> <p>【東日本大震災メモリアル day】 まだ実施していないが、活動報告会のあり方、ワークショップのテーマなど、今回のフォーラムを振り返ると見えてくる課題があると考えられる。実施後は、参加者から広く意見いただき、東日本大震災を後世に継承するフォーラムの一つとして確立していきたい。また、本フォーラムでは県外から招く生徒や教員の交通費や宿泊費を本校で負担している。参加校の増加を検討しているが、その分負担も大きくなることが考えられる。その際の資金の確保も大きな課題として考えられる。</p> <p>【その他】 参加メンバーが固定化されており、参加生徒の裾野を広げていきたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今後も、東日本大震災を後世に伝承するフォーラムとして、また、防災・減災について学び、災害を研究するもの同士の交流により防災の芽を全国に拡げるフォーラムとして、このフォーラムを継続したいと考えている。そこに向けて、本校では「津波波高標識設置活動」や防災・減災の「ワークショップ」を継続して実施していきたい。また、今年度のフォーラム実施後に振り返りを行い、運用方法や内容について課題や改善点を見だし、多くの防災・減災に資する人材を養成したい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

【災害実態調査】

災害実態調査では、本校が平成 24 年から行っている「津波波高標識設置活動」を実施した。津波痕跡の消失により、痕跡を発見しての波高測定が難しくなり、地域の住民からの聴き取りによる波高確認に変更して2年目となる。本年度は企業からの聴き取りを実施したが、このことにより聴き取りの幅が増え、今後の活動が行いやすくなったと考えられる。

この活動のポイントは、地域住民や地域企業から聴き取りを行うことで、地域の課題を知ることである。地域社会に貢献する人材の育成においては、地域の課題を知ることが必要不可欠であり、この活動は生徒が地域住民と対話する貴重な機会となっている。課題を発見することで、その課題を解決する方法を考えるようになり、課題解決力の育成につながる。また、そのなかで主体性も培われていく。

この活動は、単なるフォーラムのネタとしての活動ではなく、今の社会で必要な力の育成にも貢献している活動である。

◎多賀城市大代地区内みやぎ生協での聴き取り調査



◎麒麟ビール(株)仙台工場での聴き取り調査



(自由記述: 1/3)

【ワークショップ及びファシリテーター養成講習】

本校では、東日本大震災以降、津波波高標識設置活動や災害科学科の開設にあたり、県外の高校や訪日者が交流や視察に訪れるようになった。交流会を重ねるにつれて、交流時にワークショップを実施し、防災の知識を深め、災害時に適切な対応をとる学習を行ってきた。また、全国防災ジュニアリーダー育成合宿や国連世界防災会議のフォーラムなどにおいてワークショップを経験してきた。しかし、ファシリテーターとしての資質やワークショップの意義などについては、深く考えることなく実施してきたため、ファシリテーターの養成が必要不可欠であった。

そこで今年度は、交流をする県外の高校との交流の際に、フォーラムを意識して、ファシリテーターとしての資質の向上に努めてきた。しかし、指導する側も十分な知識を持っているとは言えず、ファシリテーターの養成を東北学院大学の和田教授に依頼することにした。

実施してみると、ファシリテーションに必要なことや進行の仕方、ワークショップのテーマの決め方や条件設定の仕方など様々なことを教えていただき、生徒・教員ともども目からウロコなことばかりであった。

ワークショップは、グループの共同作業による課題解決を実践する力を養うことができる活動であり、これも社会で必要とされる力である。この力を正しく養うために、ファシリテーターは重要な役目であり、このプログラムを通して生徒たちにその素養を身につけさせることができたことは、今後の交流を有意義なものにする上で大きな意味を持つ。

◎兵庫県高校生とのワークショップ（発災後 24 時間後のシミュレーション）

◎三重県中高生とのワークショップ
(避難所運営ゲームHUG)

◎ファシリテーター養成講習



(自由記述: 2/3)

【東日本大震災メモリアル day】

◎参加者

- 北海道 室蘭栄高等学校 (教員 1 名, 生徒 3 名)
 青森県 八戸北高等学校 (教員 3 名, 生徒 2 名)
 岩手県 釜石高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 福島県 磐城高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 ふたば未来学園高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 兵庫県 舞子高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 神戸大学附属中等教育学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 芦屋高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 新潟県 県央工業高等学校 (教員 1 名, 生徒 2 名)
 宮城県 石巻西高等学校 (教員 1 名, 生徒 4 名)
 多賀城市東豊中学校 (教員 1 名, 生徒 4 名)

◎日 程

12:35		14:00		15:20		17:30		18:20		19:00		20:30	
		13:40		20		30		40		40			
3/4 土	多賀城	準備	開 会 行 事	[基調講演] 東北大学 災害科学国際研究 所 佐藤 健 教授	休 憩	[活動報告] 各学校からの 報告	休 憩	[ポスター発表] ポスター質疑	移 動	[交流会]			
	招待校	受付											

8:50		10:00		11:10		11:50		13:00	
9:00		10		20		12:10		15:00	
3/5 日	受付・連絡	[ワークショップ]	休 憩	[ワークショップ]	休 憩	[まとめ]	閉 会 行 事	昼 食	[被災地案内] 県外学校
		もし、24時間前に 戻れたなら…		もし、24時間前に 戻れたなら…		宮城教育大 野澤 令照			

(自由記述: 3/3)